

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念とともに、当グループホーム独自の理念も挙げて運営している。	ホーム独自の理念はある。ただし理念と明示されてなくスタッフルーム内に貼られている。職員への意識づけは研修時に本部の理念とともにやっている。	理念と明示され、利用者やご家族、外部からの来訪者にも見えやすい所に、貼り出されるよう望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域の方への挨拶を心がけ、良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。今後は、地域の催し物への参加や、ホーム内行事へのご招待もできればと考えている。	広報誌や回覧板で地区の催しや祭りのお知らせはあるがホームの利用者の参加については検討中である。中学生の職場体験実習があり6人を2日間受け入れた。利用者の話し相手に来てくれる近所の方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生を対象にした福祉の職場体験事業の受け入れや、地元の技術専門校の訓練生の見学会受け入れなど、認知症についての理解を深めていけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いたご意見は、職員にも伝えるようにし、必要であれば話合うようにしている。	3ヶ月ごとに年4回実施している。メンバーは家族代表、民生委員、区長、介護相談員、市職員、広域連合職員で出席率は8割程度である。地域の情報をいただくなど、双方で意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも、必要に応じ報告、連絡を行ない、お互いに協力関係を築けるようにしている。	機会あるごとに連絡をとり合い相談にのっている。市から派遣される介護相談員の方が2人、1ヶ月に2回訪問していただき利用者さんと顔なじみになってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の研修などで、正しい理解を得られるように取り組んでいる。	22時～翌6時30分の間、玄関の施錠を行っている。玄関にチャイムがあり、出入りについて気づけるようにしている。職員による身体拘束委員会を適宜開催し、身体拘束について話し合う機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での採用時の研修の際に、虐待についての研修を行ない、理解を深められるようにしている。利用者の身体等に異常がないか、職員が常に目を配るよう心がけている。		

ニチケアセンター川岸夏明・つつじユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、ホーム内会議等で学ぶ機会を設けていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、丁寧に説明を行ない、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、ご家族からの意見を頂くようにしている。アンケート方式の顧客満足度調査も実施し、ご家族が率直に答えられる機会を設けている。	家族の面会は毎月来られる方が多く、週2～3回の方もいる。面会時には意見・要望を伺い、いただいたものはホーム会議等で話しあっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等で、職員の意見を聞く機会を設けているが、今後そのような機会を更に増やしていきたいと考えている。	毎月1回開催するホーム会議等で意見を聞くようにしている。参加できない職員には管理者が伝えたり、意見を聴いたりしている。職員の異動については玄関に貼ってある職員の写真や便りで確認できるようにしている。管理者と職員の面談を不定期ではあるが実施し、意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、職員の働く意欲の向上となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修など、職員がそれぞれ参加できるよう、配慮されている。社外の研修についても、随時広報し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム連絡協議会主催の研修へ参加し、意見交換を行なうなど、少しずつではあるが、ネットワークづくりに向け取り組み始めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に面談を行ない、本人の思いを把握できるようにしている。得た情報については、職員への共有を図り、本人との良い関係を築いていけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族の不安や要望をよくお聴きするよう心がけている。要望に添えるよう、ケアプランに反映し、サービスの提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のあった際に、グループホーム以外のサービスの利用が可能であるか見極め、必要に応じ、他のサービスについてもご家族等にご提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安や心配ごとの訴えなどある時は、職員が寄り添い良くお聴きするよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子など、家族にこまめにお伝えするよう心がけている。家族と一緒に過ごしていただく機会を持てるよう、配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟、友人の方の来訪時には、本人と共に過ごしていただいたり、外出もできる範囲でお願いしている。	市内から利用されている方に知人の方の面会があった。携帯電話を2名の方が持っており時々かけている様子がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などは、できる限り利用者同士協力しあい、行なえるようにしている。それを通して、お互いに良い関係を築いていけるように支援している。		

ニチケアセンター川岸夏明・つつじユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後、お手紙を差し上げるなど、関係を大切にしていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いや希望を把握できるよう、コミュニケーションを図ったり、ふれあう時間を持つよう努めている。	3割位の方が自分の思いを言語で表出するのが困難である。その場合には表情・仕草・ふと漏らした単語等から思い測っている。大勢の中では言えない方には、自室で個別に伺うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、サービス関係者から、生活歴や今までの暮らしの様子などお聴きするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態等よく観察するよう心がけ、職員間での申し送りをこまめに行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式シートを用いて情報収集と課題分析を行ない、それらを基に介護計画を作成している。	利用者の担当制をとっており職員1人あたり2～3名の利用者を担当している。計画作成担当者は担当職員の意見を聞いたり、家族の意見を聞き、情報を集めて介護計画を立案している。状態に変化がなければ3～6ヶ月ごとにモニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、職員間で情報共有できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に出来る範囲で対応できるよう、検討を行なっている。		

ニチケアセンター川岸夏明・つつじユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の余興ボランティアグループや、傾聴ボランティアの受け入れを行っており、楽しさを持てるよう取り組み始めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回または必要な時に、提携医の訪問診療を受けられるようにしている。本人、家族が希望する医療機関への受診は、家族に受診の対応をお願いしている。	ホーム提携医への受診は緊急時を含め職員が対応し、家族への連絡・対応は管理者が行っている。ホーム提携医以外の受診については家族が対応している。看護職の常駐はない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問時に、利用者の状態等について報告・相談をするようにしている。訪問時以外でも利用者の状態により、24時間いつでも連絡がとられ、必要であれば緊急訪問を受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の状態等について病院関係者へ情報提供している。入院先へ伺い、利用者の様子を関係者から聴く機会もつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期のあり方についてお話を伺うようにしている。関係者と共に話し合いをしながら、チームとしての支援ができるよう心がけている。	入居時に家族の方針を伺っている。重度化して医療機関に入院された方はいるが、ホームでの看取りは無い。訪問看護ステーションと提携しており、緊急時に依頼できるシステムになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による救命講習会の実施をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いにて、避難訓練を実施し、緊急時に対応できるよう努めている。地元の消防団にも施設の内部等の確認をしてもらい、災害時の対応など助言をいただいている。	昼間の火災を想定した訓練を昨年実施し、今年度は10月に予定している。地元の消防団の方には建物内の細かい所の意見をいただいたので参考になった。	夜間を想定した訓練の実施も計画していただくよう希望する。そのための準備として各職員が夜間勤務をイメージし、それぞれの意見を出し合い、話し合う機会を設けられることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉かけは、基本的に敬語を使うようにしている。また、本人の思いを大切に言葉かけも心がけ、人格の尊重にもつながるよう努めている。	基本的には姓にさんづけで呼んでいる。方言も用いながら利用者が心地よいと思う言葉掛けをおこなっている。採用時に人格尊重・プライバシーの保護について研修している。マニュアルへの記載もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着たい洋服など、暮らしの中で本人ができるだけ選ぶ場面が増えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の力でできることは行なってもらうことで、本人のペースで生活できるように支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた髪型や、服装などしていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、献立を考えたり、調理に関わったりできるよう、支援を行なっている。	献立の作成は利用者の希望を聴きながら夜勤者が行っている。利用者のうち4～5人の方が手伝いができる。野菜を切ったり、味見をしたり、盛りつけ、洗い物等でお手伝いしている。全利用者が自力摂取できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表の使用にて量を把握し、摂取量が少ない方に対しては、食事以外の時間にも水分等口にしていただくことができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、自分で口腔ケアが行なえるよう促している。自力では困難な方については、職員が介助を行なっている。		

ニチケアセンター川岸夏明・つつじユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、こまめにトイレへの声かけや誘導を行なっている、トイレでの排泄ができるよう、心がけている。	排泄パターンの把握、本人の様子からトイレへの声かけ・誘導を行っている。自立の方は1人、他の方は何らかの介助が必要である。夜勤帯で介助の必要の方が4人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を勧めるとともに、食物繊維の豊富な物や乳製品を献立に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じ、入浴が行なえるよう心がけている。	入浴は毎日可能である。隔日に入る方が多い。拒否の強い方にも何とか週2回は入っていただくよう勧めている。自立の方はいない。全員何らかの介助が必要である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない方には、飲み物を飲みながらお話を傾聴したり、添い寝を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、処方箋ファイルを作成し、服薬している薬の種類や用法が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事など、計画を立て行なっている。本人の趣味や好きなことを、暮らしの中で行なえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を聴き、外出の計画を立て出かけられるよう支援している。今後、更に機会を増やしていきたいと考えている。	1階のテラスに降りて外の空気に触れることもある。家族の協力を得て外出している。	敷地内に出るだけでも良いので、毎日新鮮な空気を吸い、日差しを感じられるような工夫を期待する。

ニチケアセンター川岸夏明・つつじユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には一括管理させていただいている。ご家族らと買い物に出かけられた際など、お金を使える機会も持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には、本人用の携帯電話などで、家族の方と会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部には、季節の装飾なお行ない、四季を感じていただけるようにしている。主な共用空間であるフロアには、まわりの音や室温等が心地良く感じられるよう、配慮している。	ペットボトルを利用した風鈴が天井から下げられていて、季節感を感じた。冷房のためか窓が締め切っており空気の重たさを感じた。昼食時にもテレビがついていて、会話もあまり聞かれなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の思いを大切に、仲の良い方と一緒に過ごせたり、ゆっくり一人で過ごす時間を持てるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物や、使い慣れた家具を持ってきていただき、居室でできるだけ居心地良く過ごせるようにしている。	使い慣れたベッドやタンスが持ち込まれていた。壁に洋服を数枚ぶら下げて、家に居たときと同じ雰囲気を作っている方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に本人のお名前を出させていただくなど、本人が分かるような工夫をしている。		